

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02123

研究課題名（和文）英独仏旅行者の情報探索行動に注目したインバウンド促進戦略に関する研究

研究課題名（英文）Research on Information searching behavior of British, French and German tourists to Japan in case of Contents Tourism

研究代表者

中川 正悦郎（Nakagawa, Shoetsuro）

成城大学・経済学部・准教授

研究者番号：20755839

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、欧州の潜在的旅行者が日本のポップカルチャー（JPC）に対して情報探索をする際に、どのような情報源の利用パターンが見られ、そのパターンはどのような要因により規定されるかを明らかにすることである。英独仏の潜在的旅行者を対象とする複数回の調査の結果から、JPCに対する情報探索では、オフラインの情報源よりも、オンラインの情報源が活発に利用される傾向が示され、またオフラインの情報源の中ではJPC関連のイベントが重要な役割を果たしていることが示された。また、各情報源の利用を規定する要因に関しては、各情報源の情報の質に関する評価が重要な影響を及ぼしていることが明らかにされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、訪日動機の1つである日本のポップカルチャー（JPC）に対する潜在的旅行者の情報探索行動の実態とその規定要因を明らかにすることにより、JPCを活用した効果的な訪日インバウンドプロモーションについて示唆を示せたことである。本研究の学術的意義は、潜在的旅行者のJPCに対する情報探索行動の実態を明らかにすることで、消費者の情報探索行動の新たな側面に関する知見を提供できたことである。また、本研究の実践的意義は、調査結果に基づいて、JPCを活用した訪日インバウンドプロモーションにおける効果的なメディア活用のあるり方について具体的示唆を提供できたことである。

研究成果の概要（英文）：The objective of this study is to identify the pattern of the sources that European potential tourists use when searching for information about Japanese Pop Culture and clarify what factors are important to determine such patterns. According to the results of the surveys, online information sources are used more actively than offline information sources. Furthermore, although overall offline information source usage is relatively low, Japanese related events play an important role as information source. In regards to the antecedents of source usage behavior, it was revealed that the evaluation of information quality of the sources has a significant effect on the level of source usage.

研究分野：マーケティング，消費者行動

キーワード：インバウンド クールジャパン ジャパニーズ・ポップ・カルチャー コンテンツツーリズム 消費者情報探索

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、訪日旅行者数は急速に伸びているものの、その地域別の内訳をみると、東アジア・東南アジアからの旅行者で 8 割以上を占めており、地理的に日本から離れている国々からの旅行者の割合は小さいのが現状である。本研究で注目する欧州からの旅行者の割合は 2018 年の時点で全体の約 4% である。訪日旅行者数のさらなる拡大のために、欧州からの旅行者数を拡大させることは重要な課題といえる。欧州の潜在的旅行者が、日本に関心をもつきっかけの 1 つに、日本のマンガやアニメといった日本のポップカルチャー（以下、JPC と表記）の存在があげられる。そのため、訪日インバウンドプロモーションにおける観光資源として JPC を活用していくことが考えられる。JPC を効果的に活用するためには、欧州の潜在的旅行者が JPC に対して情報探索を行う際に、どのような情報源の利用行動が見られ、その行動のパターンはどのような要因により規定されるのかについて理解する必要がある。この点を明らかにすることで、JPC を活用した効果的な訪日インバウンドプロモーションを行うための示唆を導くことが可能になる。

2. 研究の目的

本研究では欧州の中でも特に訪日旅行者数が多い英独仏の 3 ヶ国に注目し、これらの国々における潜在的旅行者の JPC に対する情報探索行動の解明を目的としている。具体的には、まず彼らが JPC に対する情報探索を行う際に、どのような情報源をどの程度利用しているのかという情報探索行動の実態を明らかにすることである。また、その行動を規定する要因と想定される情報源の情報の質（information quality）に関する評価に注目し、その評価が情報源の利用の程度に及ぼす影響について明らかにする。さらに、訪日インバウンドプロモーションにおける観光資源としての JPC の有効性を検証する必要がある。そこで、JPC に対する好意的な態度形成が訪日意図に対してどのような影響を及ぼすかについても明らかにする。これらの点の解明を通じて、JPC を活用した効果的な訪日インバウンドプロモーションに対する示唆を導く。

3. 研究の方法

はじめに先行研究や各種調査のレビューを通じて、潜在的旅行者の情報探索行動の実態に関する現状の整理を行うとともに、彼らが JPC に対する情報探索を行う際に主に利用すると想定される情報源について整理を行った。また、潜在的旅行者の情報探索行動に影響する要因として情報源の情報の質に注目し、同概念に関連する先行研究のレビューを行い、本研究で特に焦点を当てるべき情報の質の次元を明確にした。次に、英独仏における潜在的旅行者の情報探索行動の実態を明らかにするための調査を実施した。具体的には、仏独では、日本関連イベント会場において来場者を対象とする調査を実施した。また、英仏についてはオンライン上で同様の調査を実施した。これらの調査から得られたデータの分析を通じて、潜在的旅行者の JPC に対する情報探索行動の実態を明らかにするとともに、それを規定する要因や、情報探索の結果としての訪日意図へ及ぼされる影響に関して分析を行った。得られた知見をもとに訪日インバウンドプロモーションにおいて JPC を効果的に活用するためには、いかなる点に留意すべきかディスカッションを行った。

4. 研究成果

(1) 潜在的旅行者の JPC に対する情報探索行動の実態

各調査から得られたデータを分析した結果、いずれの国においても全体的な傾向としては、オフラインの情報源よりもオンラインの情報源が積極的に利用されている状況が示された。オンラインの情報源の中でも、特に SNS・ファンサイトや動画サイトなど主に個人により情報発信される情報源の利用の程度が高い傾向が見られた。また、オフラインの情報源の利用の程度は相対的に低いものの、JPC 関連のイベントは比較的重要な役割を果たしている情報源であり、特にフランスにおいてはその傾向が顕著であることが示された。また、オンライン調査の結果からは、英仏の潜在的旅行者の情報探索行動がより詳細に解明された。イギリスはフランスと比べてオンライン重視型の情報探索行動が見られると想定される結果が得られ、他方でフランスでは目的に応じてオンラインの情報源とオフラインの情報源を組み合わせた探索行動の傾向が強いものと想定される結果が得られた。

(2) 情報の質に関する評価が情報源の利用の程度に及ぼす影響

本研究では、情報の質の中でも、情報の有益さ、情報の目的適合性、情報の信憑性、情報の新しさ、情報の十分さの 5 つの次元に注目し、それらの評価が情報源の利用水準に及ぼす影響について英仏のサンプルを対象に分析を行った。特に大きな影響を及ぼしていたのは、情報の有益さおよび情報の目的適合性であった。ただし、この点については国による傾向の違いが見られた。イギリスに関しては、複数の情報源について情報の有益さが情報源の利用水準に正の有意な影響を及ぼすことが確認され、情報の有益さの評価が特に重要な要因であるといえる。他方で、フランスについては複数の情報源について情報の目的適合性が情報源の利用水準に正の有意な影響を及ぼすことが確認され、情報の目的適合性の評価が特に重要な要因であるといえる。情報の十分さについてはいずれの国においてもいくつかの情報源で有意な影響が確認されたが、情報源の利用を決定づける要因との評価は難しい結果であった。また、情報の信憑性、情報の新しさ

については、ほとんど有意な影響は確認されず、JPC に対する情報探索行動を規定する要因とはいえない結果であった。

(3) JPC に対する態度が訪日意図に及ぼす影響について

潜在的旅行者が JPC に対する情報探索を行った結果、JPC に対する好意的な態度が形成される可能性が考えられる。そして、その結果として訪日意図が高められる可能性が考えられる。そこで、JPC に対する態度が訪日意図に対して及ぼす影響について2つの関係性を仮定して分析を行った。1つ目は JPC に対する態度が直接的に訪日意図に正の影響を及ぼす可能性である。2つ目は JPC に対する態度が観光旅行先としての日本に対する態度に正の影響を及ぼし、それを介して間接的に訪日意図に対して正の影響を及ぼす可能性である。仏独において行った実地調査から得られたデータを分析した結果、いずれの国においても JPC に対する態度が訪日意図に対して正の影響を及ぼすことが確認されたが、その関係性には違いが見られた。ドイツに関しては、JPC に対する態度は訪日意図に対して直接的に正の影響を及ぼすことが確認されたが、間接的な影響については確認されなかった。フランスに関しては、JPC に対する態度から訪日意図に対する直接的な影響は確認されなかったが、観光旅行先としての日本に対する態度を介して間接的に訪日意図に対して正の影響を及ぼすことが確認された。これらの結果から、JPC に対する好意的な態度形成が訪日意図を高めることが示され、訪日インバウンドプロモーションにおいて、観光資源として JPC を活用していくことの有効性を検証することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 川又 啓子、田嶋 規雄、黒岩 健一郎、三浦 俊彦	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 日本のポップカルチャー・イベントの形成・発展に関する研究ノート	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 青山総合文化政策学	6. 最初と最後の頁 73-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川又 啓子、田嶋 規雄、三浦 俊彦、中川 正悦郎	4. 巻 -
2. 論文標題 The Process of Development and the Evolution of Japanese Pop Culture Events: Case of the World Cosplay Summit, Nagoya Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings: cfest>NEW CHALLENGES IN THE DIGITAL AGE?	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川正悦郎	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 仏独旅行者のジャパニーズ・ポップカルチャーに対する情報探索行動：日本関連イベントにおける来場者調査の結果から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山総合文化政策学	6. 最初と最後の頁 93-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 川又 啓子、田嶋 規雄、三浦 俊彦、中川 正悦郎
2. 発表標題 The Process of Development and the Evolution of Japanese Pop Culture Events: Case of the Japan Expo (Paris, France) and World Cosplay Summit (Nagoya, Japan)
3. 学会等名 cfest>NEW CHALLENGES IN THE DIGITAL AGE? (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川正悦郎
2. 発表標題 仏独旅行者のジャパニーズ・ポップカルチャーに対する情報探索行動：日本関連イベントにおける来場者調査の結果から
3. 学会等名 青山学院大学総合文化政策学会主催研究会 2019年度 ACL研究プロジェクト
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Japanese Pop Culture Events as a Tourism Resource Keiko KAWAMATA, Norio TAJIMA, Kenichiro KUROIWA, Toshihiko MIURA https://www.djw.de/de/infopool/japanese-pop-culture-events-as-a-tourism-resource</p> <p>ジャパニーズ・ポップ・カルチャーに対する情報探索行動 潜在的ドイツ人旅行者を対象として 中川 正悦郎, 川又 啓子, 田嶋 規雄 https://www.djw.de/ja/infopool/verhaltensweisen-bei-der-informationssuche-nach-japanischer-pop-kultur</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川又 啓子 (Kawamata Keiko) (00306854)	青山学院大学・総合文化政策学部・教授 (32601)	
研究分担者	田嶋 規雄 (Tajima Norio) (20328008)	拓殖大学・商学部・教授 (32638)	